

# 東村山市観光振興検討報告

(東村山市の観光振興への提言)

## I. はじめに

当市には歴史的文化遺産や恵まれた自然環境、古くから伝えられる食文化や質の高い花卉・果樹栽培など、観光資源となりうる多くのものが存在します。

これまで観光は名所や旧跡、温泉など周遊型が中心となって展開されてきましたが、近年においては地域の自然や歴史、文化を訪ねることや、体験活動などが好まれる「新しい観光」へと変化してきました。

「新しい観光」では地域の良いものを再発見し、地域の良さを来訪者に認められることで住民が自らの地域に、より確かな誇りを感じることができます。また、人が動くことによって賑わいが生まれるなど、地域が活性化されます。

さらに、来訪者の観光消費により多岐にわたる経済効果が期待できます。

このように「新しい観光」は、当市の観光資源でもその担い手により、魅力ある展開が可能なものであり、大きなまちづくり効果が期待できます。

現下の厳しい市財政では、各省庁補助金、各財団基金、民間支援資金等の活用を図り、明日の東村山を具現化していく必要があると考えます。

このような観点から、歴史・文化的資源、人的資源、産業観光資源、PRの方法・その他の4つに分類し以下提言を行います。併せて、観光と地域住民との関わりをどのように進めていくか、地域観光の魅力を創出する将来を見据えた「(仮称)観光振興計画」の策定と市役所組織における担当部署の設置を提言します。

## Ⅱ. 東村山市の観光振興に向けて

### 1. 歴史・文化的資源の活用

国宝「正福寺地蔵堂」、北山公園「菖蒲苑」、「八国山たいけんの里」（縄文体験館）などの活用方法

#### 【提言】

地域観光の振興は地域特有の歴史や文化をどれだけ大切にし、それを磨き、地域の誇りとして情報発信することが鍵を握っている。

正福寺地蔵堂は都内唯一の国宝建造物であり、また下宅部遺跡から発掘された縄文時代の出土品は学術的にも貴重な資料として八国山たいけんの里に保存・展示されることとなっている。

市内北西部地域は、八国山緑地や北山公園、正福寺地蔵堂や八国山たいけんの里など、当市の観光資源が多く集まる地域である。

歴史を背景に固有の文化を育み、往時の建物、文化人の居宅、伝統芸能等が残るとともに、新たな現代的な芸術的価値を生み出している。それらの一つひとつが魅力的な集客施設になり得るとともに、個々の魅力を組み合わせることで大きな相乗効果が生み出され、まち全体が強力な集客装置となる。北西部地区の観光資源を活用した一体的な整備が必要である。

#### 【具体的施策】

- (1) 常設または定期的な江戸期の山車・屋台・人形・芝居の再現および市（いち）、縁日の出店
- (2) 北山公園にて、菖蒲苑、池、水辺の生き物観察や田植えの情景展示
- (3) 休憩所、案内看板の整備
- (4) アクセス道路や駐車場の整備

### 2. 人的資源

人はもっとも価値ある地域資源であり、専門的な知識・経験を得て東村山市を内外に紹介する人材の育成を行う

#### 【提言】

地域の良いものを広げていくうえで、担い手の確保、意欲、技量がその成否を左右するため、担い手づくりは最重要の課題である。

担い手の交流機会の創出、活動を支援するサポートセンターや、活動へのアドバイスを行う人材バンクの形成などが望まれる。

また無関心な人々に関心を持ってもらうため、切り口として学校教育、校外活動を通じた体験学習、観察・鑑賞会の学習型イベント等、住民誰もが楽しく参加できる新しい企画が望まれる。担い手づくりの一体的な整備が必要である。

#### 【具体的施策】

- (1) 担い手の交流機会の創出
- (2) 市民活動のサポートセンターの新設
- (3) 人材育成の教育体制の拡充
- (4) 資金的なバックアップ制度の研究
- (5) 東村山市商工会観光振興事業の人材育成プランとの関係の検討
- (6) 観光ボランティアガイドの育成と活用

### 3. 産業観光資源

地域ブランドや農産物等の地域特有の産業を観光資源に位置づけた活用と推進

#### 【提言】

近年、観光客の成熟化により、名所旧跡や自然環境を見る従来型の観光形態以外に、交流、体験、学習など、観光の概念の幅を広げる新しい形態の観光ニーズが拡大している。こうした中で、新しい観光形態として、今産業観光が注目され始めている。

産業観光とは、特産品や地域食のブランド化をはじめ、商店街や工場等の事業所で視察や見学を受け入れたり、農産物の収穫や農業体験をするなど新たな視点での観光提案である。これら産業資源を有効活用し、さらに歴史・文化的資源と関係させることでまちの魅力を創出させ、多様な切り口で観光客の誘引を図る。

#### 【具体的施策】

- (1) 特産品等のブランド化推進
- (2) 産業関連施設での特産品等の PR 販売
- (3) 商店街での観光イベントの実施
- (4) 農業体験や工場見学の受け入れ体制の整備
- (5) 武蔵野うどん等地域食の PR と活用
- (6) 市職員による平成 14 年度課題研修報告書「東村山の手打ちうどんを

キーとした市民 commons の確立にむけて」の活用

#### 4. PR の方法、その他

観光客を集客するための PR の充実と方法

##### 【提 言】

観光客の行動は、各種の情報を入手することから始められる。動機付けのための的確な「情報発信」は不可欠であり、各種メディアの活用や東村山駅西口再開発ビル内に設置される産業関連コーナーの活用が必須である。特に産業関連コーナーには、観光案内とともに、特産品の展示販売やイベント紹介所を兼ねたものにすることを提案する。

さらに、地域を広域的に PR するうえでは、輸送機関という側面だけでなく情報伝達という点においても、鉄道事業者との関係が極めて重要であるため、各種施策の検討が必要である。

##### 【具体的施策】

- (1) 観光パンフレット・地図の整備（統廃合含む）
- (2) スタンプラリー等イベントの有効活用
- (3) 共通チケットなどの検討
- (4) 西武鉄道との関係（駅張り広告、電車の中吊り広告等）
- (5) マスメディアの活用
- (6) 市職員による平成 15 年度課題研修報告書「ロケ誘致を活用した自治体 PR ～東村山市イメージアップ大作戦！～」の活用